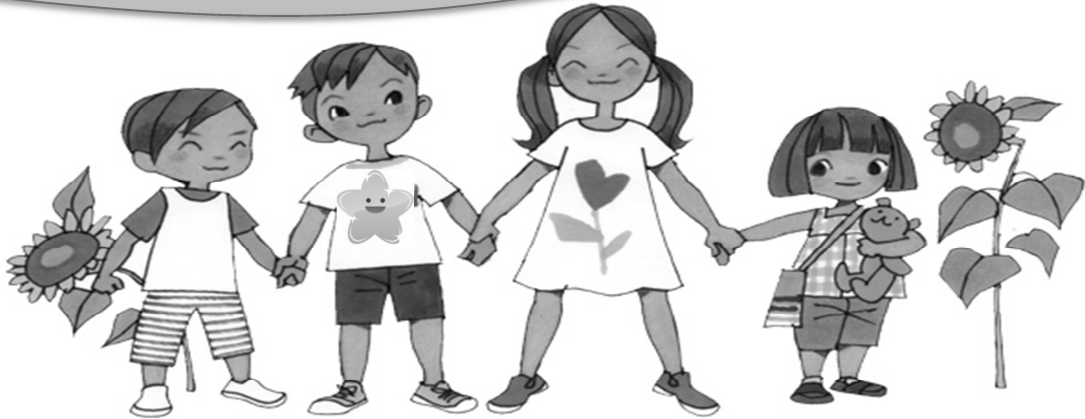


# 中野市立小学校及び中学校適正規模等 基本方針(案)について 市民説明会 (H27.8.31 訂正版)



市民説明会開催日程  
午後6時30分～

## 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 基本方針(案)について
- 4 質疑
- 5 閉会

月 日	会 場
8月25日(火)	科野小学校
8月28日(金)	長丘小学校
8月31日(月)	平岡小学校
9月1日(火)	倭小学校
9月8日(火)	豊井小学校
9月9日(水)	永田小学校
9月10日(木)	中野小学校
9月14日(月)	日野小学校
9月15日(火)	延徳小学校
9月29日(火)	高丘小学校
9月30日(水)	平野小学校

## はじめに

本市の児童生徒数は、昭和 59 年度から現時点までの 30 年間で、約 6 割まで減少していますが、これから先平成 32 年度までの推計ではさらに減少し、現在の学校数を維持した場合、小規模化の進行が予想されます。

こうした少子化の進展による将来的な児童生徒数の減少に対応し、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備と教育の質の一層の充実を確保するため、「中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会」から出された答申を尊重し、「中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）」を策定いたしました。

本方針の推進にあたっては、保護者や地域の方々にその意義を十分にご理解いただくことが不可欠です。

子どもたちにとってどんな教育環境を提供すべきなのか、どのような支援を行うべきなのか、一緒に考えていただくとともに、今後とも積極的なご支援ご協力をお願いするものであります。

### （参考資料）

資料 1 . . . 中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）

資料 2 . . . 中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）  
概要版

資料 3 . . . 中野市の男女・年齢（5 歳）階級別データ  
『日本の地域別将来推計人口』（平成 25 年 3 月推計）

資料 4 . . . 児童生徒数の比較（平成 27 年度と 32 年度）

資料 5 . . . 統合後の学級数（平成 32 年 5 月 1 日予定）

資料 6 . . . 学校施設の概要

資料 7 . . . 中野市小・中学校マップ

中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）

平成27年6月

中野市教育委員会

## I 基本方針策定にあたって

### 1 趣 旨

小中学校の児童生徒のよりよい教育環境の整備と教育の質の一層の充実を目的とした、小中学校の適正規模及び適正配置を推進するため、基本方針を策定する。

### 2 背 景

本市の児童生徒数は、昭和59年度から現時点の30年間で、約6割まで減少している。平成32年度までの推定では、児童生徒数がさらに減少し、今後、現在の学校数を維持した場合、さらに小規模化の進行が予想される。

小中学校の小規模化は、児童生徒の社会性の育成、多様な学習活動や集団活動の展開、さらには学校運営などにおいて、様々な問題を生じさせる危惧がある。

こうした現状を受け、中野市教育委員会（以下、市教委）では平成24年9月に「中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会」を設置し、平成26年9月に答申を受けたところである。この答申では、適正規模及び適正配置への基本的な考え方や推進方法等、貴重な提言がなされた。

平成32年度までの学校規模の状況は、小学校が3校（中野小、平野小、平岡小）以外の8校が、中学校では1校（豊田中）が、全学年で単級となる。また、10人未満の学級が小学校で現在9学級あるが、平成32年度には17学級になる見通しであり、中野市内では学校規模の偏りがさらに大きくなる状況にある。

市教委では、現状と今後の見通しを踏まえた上で、将来を見据え、答申を尊重しつつ、よりよい教育環境の整備と教育の質の一層の充実を図る視点に立ち、児童生徒や保護者をはじめ地域住民の十分な理解と協議を行いながら、円滑な推進を図ることとしたい。

## II 適正規模と適正配置の基本的な考え方

### 1 適正規模の基本的な考え方と基準

中野市総合計画では、心豊かでたくましい子どもを育てる学校教育が求められている。そのために、快適な集団生活のなかで児童生徒が自ら学び、考える力を育成するとともに家庭や地域と連携し、個性を生かす教育を推進していかなければならない。

また、答申内容と児童生徒にとってよりよい教育環境の整備を踏まえながら、適正規模と適正配置の基本的な考え方を次に示す。

#### (1) 適正規模の基本的な考え方

- ①多様な人間関係のなかで、集団のルールを学び、社会性を高めるとともに、個性や能力の伸長が期待できる学校規模であること。
- ②学級の編制替えにより、人間関係の固定化を防ぐことができるとともに、児童生徒の活力の増進と学校の活性化が期待できる学校規模であること。

- ③総合的な学習の時間の充実、教科担任制、少人数学習集団編成等が展開できる学校規模であること。
- ④一定の教員数の確保により、児童生徒と向き合える時間が増え、学校の運営組織の効果的な編成が期待できる学校規模であること。
- ⑤一定の児童生徒数の維持により、希望選択で活動に取り組めるクラブ活動や部活動の活性化が期待できる学校規模であること。
- ⑥安全で十分な活動場所が確保できる学校規模であること。

(2) 中野市における小中学校の適正規模の基準

基本的な考えと答申を踏まえ、次のとおりとする

- ①小学校においては、1学年2学級以上とする。
  - ・多様な人間関係を築くことができる学級編制替えが可能であること。
- ②中学校においては、1学年3学級以上とする。
  - ・多様な人間関係を築くことができる学級編制替えが可能であること。
  - ・教科担任制の充実と学習集団の弾力的な編成の教員確保が可能であること。
  - ・部活動が活性化できること。
- ③1学級あたりの児童生徒数は、その年度によって人数の増減はやむを得ない。
  - ・なお、学校教育法施行規則第41条及び同規則79条（中学校）も参考にした。

※特別支援学級は学校規模に関係ないので学級数に含めない。

※学級数は長野県の学級編制基準の30人規模学級で算出する。

2 適正配置の基本的な考え方

通学距離や通学の安全等を考慮しながら、学校を地域に適切に配置することを基本的な考え方とする。

III 適正規模及び適正配置の検討対象校と推進の方策

1 適正規模及び適正配置の検討対象校

- ①基本方針でいう適正規模を下回る学校を小規模校とする。
- ②平成32年度の推計でも適正規模への回復が見込めない学校を検討対象校とする。
- ③適正規模であっても、小規模校や適正規模を上回る学校に関係する場合は検討対象校とする。

【表 市内小中学校の規模別学校数（特別支援学級は学級数に含めない）】

	小学校		中学校	
	27年度	32年度	27年度	32年度
小規模校	9校	9校	1校	2校
適正規模を上回る学校	2校	2校	3校	2校

※平成32年度の推計値による

## 2 適正規模及び適正配置の推進の方策

通学区域見直しと学校統合という2つの方策があるが、各学校や地域の実態に応じて適切に取り入れていく。

学校統合の場合、複数校の統合により新たな学校を設立するという考え方である。

### (1) 通学区域の見直し

小中学校の連携をはかり、義務教育9年間を見通したカリキュラムの編成をしやすくするため、今ある小学校から、全員同じ中学校へ通学ができる小中学校の配置を考える。学校統合の場合も同様とする。

よって現在の市内小中学校における通学区域の見直しは現実的ではないと考える。

### (2) 学校統合

次の基本的な考えをもって、対象校の保護者や地域に対して説明をし、理解を得ながら統合に取り組むこととする。

#### ①統合後に新設校として設置

学校規模（学級数や児童生徒数）や創立からの経過年数に関係なく、対等な関係の統合とする。

学校の組み合わせ、学校の位置、学校施設の状況等により、適正規模を維持している学校も統合対象校とする場合もある。

#### ②設置場所

原則として統合対象校のいずれかの校地と既存の校舎を使用する。使用校舎は、校地面積、建築年数、施設の状況や教室数、位置、周辺環境、通学距離などを勘案して決定する。

統合後の新設校については、教育環境の充実を図る。

### (3) 学校選択制

上記を踏まえ、学校選択制はしないこととする。

## IV 適正規模及び適正配置に伴う教育環境の整備

児童生徒にとってよりよい教育環境を整えるという考え方のもと、次の条件整備を行う。

### 1 通学路の安全確保

(1) 統合後の安全な通学については、通学路を検討し設定する。

(2) 新たな通学路を検討する際、登下校の安全性が高いスクールバスの使用も検討する。

### 2 学校の施設設備の整備

様々な状況に対応できるように、施設設備面の改善や教材教具の充実を図る。

### 3 教職員等の配置

心の支援をはじめ、特別支援を要する児童生徒に対しては、今までと同様、市でも

予算措置をし一層の充実を図る。

## V 学校統合による跡地・施設利用の基本的な考え方

地元の要望等も踏まえて、全市的な行政施策との調整を図りながら検討する。

## VI 適正規模及び適正配置の対象校と今後の具体的な取り組み

- 1 対象校については、平成 29 年度より必要性の高い学校から順次取り組んでいく。
- 2 答申内容を尊重しつつも、学年の学級数や 1 学級の児童生徒数は、総合的に判断して答申の基準数に満たなかったり超過したりすることもある。
- 3 新たな通学路を設定する場合や通学距離によってはスクールバスを運行する。
- 4 平成 29 年度から取り組む対象校と具体的な進め方

### (1) 4 中学校（南宮中 中野平中 高社中 豊田中）について

#### ①現状で存続する。

平成 32 年度

	1 学年		2 学年		3 学年		学級数合計
	(学級数)	(1 学級人数)	(学級数)	(1 学級人数)	(学級数)	(1 学級人数)	
南宮中	6	31	5	35	6	30	17
中野平中	4	27	4	31	4	29	12
高社中	3	25	3	27	2	33	8
豊田中	1	30	1	31	1	23	3
学級数合計	14		13		13		40

#### ②答申では学校数の削減を提言されており、学級数の基準からすると豊田中が該当する。削減する場合、学級数と生徒数からみて隣接する高社中との統合が考えられる。

・しかし、北部地区 4 小学校（長丘小 平岡小 科野小 倭小）が統合し、高社中と校舎分離型小中一貫教育を進めていくなかで、豊井小と永田小との統合校の児童たちが中学校から高社中へ入学することは、カリキュラムの一貫性から適切ではないと考える。

・豊田中については、豊井小と永田小との統合校との小中一貫教育を推進することで、学級数や児童生徒数からくるデメリットを可能な限り克服できると考える。

・現在では、距離的にも若干の無理がある。

#### ③なお、将来的には、豊田中が豊井小と永田小との統合校と一体で高社中学校校区への統合も検討する必要がある。

### (2) 高社中学校区の 4 小学校（長丘小 平岡小 科野小 倭小）について

- ① 4 小学校は統合し、位置は平岡小とする。
- ② 児童数の減少がもっとも顕著な地区である。  
平成 3 2 年度の推定で、3 小学校（長丘小 科野小 倭小）で全学年が単級となり、平岡小は 2 学年が単級となる。また、学級の児童数 1 桁となるのが、倭小で全学年、科野小で 5 つの学年、長丘小で 2 つの学年である。  
かつ、長丘小、科野小、倭小は、国基準で複式学級に該当する学年が存在するようになるが、県基準でかろうじて複式学級を免れる状況にある。
- ③ 校舎分離型の小中一貫校を推進することで、学級数や児童生徒数からくるデメリットを可能な限り克服できると考える。
- ④ 現在も大事にしている地域との連携を中心にした『ふるさと教育』をカリキュラムの核に据えた学校運営を推進する。
- (3) 豊田中学校区の 2 小学校（豊井小 永田小）について
- ① 2 小学校は統合し、位置は豊田中学校とする。
- ② 児童数の減少が顕著な地区であり、平成 3 2 年度の推定では、2 小学校において全学年が単級となり、永田小では 3 つの学年で学級の児童数が 1 桁となる。かつ、国基準で複式学級に該当するが、県基準でかろうじて複式学級を免れる状況にある。また、豊井小も長期的には減少が続く見通しであります。
- ③ 校舎一体型の小中一貫校を推進することで、学級数や児童生徒数からくるデメリットを可能な限り克服できると考える。
- ④ 高野辰之先生の『ふるさと』をカリキュラムに取り入れ、『ふるさと教育』を核に据えた学校運営を推進する。
- ⑤ 豊田中のところで述べているが、将来的には、豊井小と永田小の統合校と豊田中が一体となって高社中学校校区への統合も検討する必要がある。
- (4) 南宮中学校区の 3 小学校（中野小 日野小 延徳小）について
- ① 中野小は現状で存続する。  
平成 3 2 年度まで、全校児童数はほぼ横ばいで、約 8 3 0 人前後である。学年 4 学級が 5 つの学年で、学年 5 学級が 1 つの学年に存在する。  
適正規模の基準を大きく上回っているが、かつて通学区見直しを検討したころに比較して、児童数はほぼ半減している。また、現在、長野県下でも特別に大きな規模ではなくなっている。
- ② 日野小と延徳小は統合し、位置は延徳小とする。  
平成 3 2 年度の推定では、日野小も延徳小も全学年で単級となる。児童数は全体的に減少傾向であり、日野小では 4 学年で 1 桁になる。しかし、日野小と延徳小を統合した場合、全校児童で約 2 1 0 人前後となり、2 学年が 2 学級、



残りの全ての学年も2学級になる可能性が大きい児童数である。さらに、少人数学習集団編成などにより、メリットを生かす工夫も可能である。

全ての学年で、適正規模又は適正配置に近い児童数となり、多様な人間関係を築く観点からも統合する。

- ③平野小と隣接する地区で、中野小からかなり遠い地区では、住民の判断に委ねることを検討したい。
- (5) 中野平中学校区の2小学校（平野小 高丘小）について
  - ①2小学校は統合する。位置は今後の検討課題とする。
  - ②平成32年度の推定では、平野小は全学年で2～3学級を保持しており、適正規模の基準に合致している。高丘小は全学年で単級となるが、1学級の児童数は16人～30人の間であり、かつ、全校児童数も140人前後である。全体的にみれば、児童数はやや減少するが、顕著な減少地区でない。  
しかし、高丘小は適正規模の基準に達しておらず、学級替えができなく、また、多様な人間関係を学ぶなどの観点から統合することとする。
  - ③両校とも校舎敷地が狭隘であり、余剰教室もないのが現状である。統合校の位置については今後の検討課題であり、最後の整備地区と考える。

## VII 適正規模及び適正配置に向けたスケジュール

本市の児童生徒のよりよい教育環境を整備するために、計画的に学校の適正規模及び適正配置を進める必要がある。そのために、平成29年度から整備することとし、スケジュールを別紙のように設定し取り組みを進める。

## VIII 結びに

今回、市教委として、中野市立小中学校を取り巻く現状及び将来的な見通しを踏まえ、「中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針」を示した。

本方針の推進にあたっては、保護者の方々や地域の方々にその意義を十分にご理解いただくことが不可欠である。私たちは、児童生徒にとってどのような教育環境を提供すべきなのか、また、どのような支援を行うべきなのか、しっかりと見定めることが大切である。

関係者の皆様には、よりよい教育環境が整備されることで、心身ともに健やかな児童生徒の育成が図られるよう、本基本方針を細部にわたり協議いただくとともに、今後とも積極的な支援をお願いするものである。

小学校及び中学校適正規模化スケジュール(案)

年度	時期	項目
平成24年度	9月6日	中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会への諮問
平成26年度	9月6日	中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会から答申
	9月～	教育委員会協議会で答申内容について協議
	3月	答申を受けて、市教委の適正規模等の基本方針(案)策定
平成27年度	4月27日	教育委員会協議会で基本方針(案)検討、了承
	5月	理事者へ説明
	6月	総務文教委員会協議会へ説明
	6月23日	議会全員協議会で説明
	7月	基本方針(案)の決定
		地域(PTA)から意見聴取(小学校区単位で開催 別表日程表参照)
		パブリックコメント
	11月	基本方針決定(最終)
	(11月)	(実施計画計上、平成28年度予算要求)
平成28年度	4月～	長期整備計画(案)の策定着手
	6月	長期整備計画(案)策定
		教育委員会協議会へ説明、理事者へ説明、総務文教委員会協議会へ説明
	7月	議会全員協議会へ説明
		長期整備計画(案)の決定
		地域(PTA)から意見聴取(小学校区単位で開催。)、パブリックコメント
	10月	長期整備計画決定(最終)
	11月	実施計画計上、平成29年度予算要求
平成29年度	4月	計画に基づき事業着手(改修工事実施設計)
	9月	工事発注
	3月	竣工
平成30年度	4月	統合開校
		以降、順次改修

市民説明会開催日程

期日	時間	会場
8月25日(火)	午後6時30分～	科野小学校
8月28日(金)	午後6時30分～	長丘小学校
8月31日(月)	午後6時30分～	平岡小学校
9月 1日(火)	午後6時30分～	倭小学校
9月 8日(火)	午後6時30分～	豊井小学校
9月 9日(水)	午後6時30分～	永田小学校
9月10日(木)	午後6時30分～	中野小学校
9月14日(月)	午後6時30分～	日野小学校
9月15日(火)	午後6時30分～	延徳小学校
9月29日(火)	午後6時30分～	高丘小学校
9月30日(水)	午後6時30分～	平野小学校

## 中野市立小学校及び中学校 適正規模等基本方針（案）（概要版）

中野市教育委員会では、少子化の進展による将来的な児童生徒数の減少に対応し、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備と教育の質の一層の充実を確保するため、答申を尊重し、「中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針」を策定する。

### 適正規模の基本的な考え方

- ①多様な人間関係のなかで、集団ルールを学び、社会性を高めるとともに、個性や能力の伸長が期待できること。
- ②学級の編制替えにより、人間関係の固定化を防ぐことができるとともに、児童生徒の活力の増進と学校の活性化が期待できること。
- ③総合的な学習の時間の充実、教科担任制、少人数学習集団編制等が展開できること。
- ④一定の教員数の確保により、児童生徒と向き合える時間が増え、学校の運営組織の効果的な編成ができること。
- ⑤一定の児童生徒数の維持により、希望選択で活動に取り組めるクラブ活動や部活動に活性化が期待できること。
- ⑥安全で十分な活動場所が確保できること。

### 適正規模の基準

- ①小学校は、**1 学年 2 学級**以上。
- ②中学校は、**1 学年 3 学級**以上。
- ③1 学級あたりの児童生徒数は、その年度によって人数の増減はやむを得ない。  
※学級数は長野県の学級編制基準の 30 人規模学級（1 クラス 35 人まで）で算出

### 適正配置の基本的な考え方

通学距離や通学の安全等を考慮しながら、学校を**地域に適正に配置**する。

### 適正規模及び適正配置の検討対象校

- ①適正規模を下回る学校。（小規模校とする。）
- ②平成 32 年度の推計でも適正規模への回復が見込めない学校。
- ③適正規模であっても、小規模校や適正規模を上回る学校に関する場合。

#### 【参考】

	小学校		中学校	
	H27	H32	H27	H32
小規模校	9 校	9 校	1 校	2 校
適正規模を上回る学校	2 校	2 校	3 校	2 校

## 適正規模及び適正配置の推進の方策と跡地等利用

小中連携をはかり、義務教育9年間を見通したカリキュラムの編成をしやすいするため、今ある小学校から、全員同じ中学校へ通学できる配置とする。⇒ 通学区域の見直し、学校選択制はしない。

↓  
**学校の統合**・・・原則、統合対象校のいずれかの校地と既存の校舎を使用。

↓  
学校統合による跡地・施設の利用・・・地元の要望も踏まえ、全市的な行政施策との調整を図り検討。

## 検討対象校の今後の具体的な取り組み

- 1 対象校については、**平成29年度**より必要性の高い学校から順次取り組む。
- 2 答申内容を尊重し、総合的に判断して答申の基準数にならない場合がある。
- 3 新たな通学路の設定や通学距離によってはスクールバスを運行する。

(1) **4中学校（南宮中、中野平中、高社中、豊田中）については、現状で存続する。**

・将来的には、豊井小と永田小の統合校と豊田中が一体となって高社中学校区への統合も検討。

(2) **高社中学校区の小学校（長丘小、平岡小、科野小、倭小）は統合し、位置は平岡小学校とする。**

・校舎分離型の小中一貫校の推進。

(3) **豊田中学校区の小学校（豊井小、永田小）は統合し、位置は豊田中学校とする。**

・校舎一体型の小中一貫校の推進。

(4) **南宮中学校区の小学校**

①中野小は現状で存続する。

②日野小、延徳小は統合し、位置は延徳小学校とする。

(5) **中野平中学校区の小学校（平野小、高丘小）は統合し、位置は今後の検討課題とする。**

・両校とも校舎敷地が狭隘であり、余剰教室もない。

## 今後のスケジュール

- |                   |                                    |
|-------------------|------------------------------------|
| ①基本方針決定後～順次       | 地域（PTA）から意見聴取（小学校区単位で開催）、パブリックコメント |
| ②平成27年11月         | 基本方針最終決定                           |
| ③平成27年度11月～平成28年度 | 整備計画策定、実施計画計上、予算要求                 |
| ④平成29年度～          | 事業着手（高社中学校区から順次）                   |
| ⑤平成30年度～          | 小学校統合校順次開校                         |

男女・年齢(5歳)階級別データ—『日本の地域別将来推計人口』(平成25年3月推計)

20211 中野市(男女計)

	<sup>A</sup> 2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	<sup>B</sup> 2040年	<sup>C</sup> B - A 増減数	C/A 増減比(%)
総数(人)	45,638	44,120	42,481	40,681	38,786	36,832	34,787	△ 10,851	△ 23.8
0～4歳	1,902	1,756	1,538	1,399	1,321	1,267	1,193	△ 709	△ 37.3
5～9歳	2,149	1,914	1,761	1,542	1,403	1,325	1,272	△ 877	△ 40.8
10～14歳	2,399	2,130	1,898	1,747	1,531	1,394	1,316	△ 1,083	△ 45.1
15～19歳	2,137	2,130	1,957	1,745	1,606	1,407	1,281	△ 856	△ 40.1
20～24歳	1,705	1,739	1,866	1,718	1,528	1,405	1,231	△ 474	△ 27.8
25～29歳	2,233	1,937	1,914	2,041	1,884	1,683	1,551	△ 682	△ 30.5
30～34歳	2,735	2,230	1,941	1,921	2,048	1,889	1,689	△ 1,046	△ 38.2
35～39歳	3,079	2,727	2,223	1,937	1,917	2,043	1,884	△ 1,195	△ 38.8
40～44歳	2,853	3,009	2,676	2,184	1,904	1,884	2,007	△ 846	△ 29.7
45～49歳	2,820	2,806	2,965	2,638	2,153	1,877	1,858	△ 962	△ 34.1
50～54歳	2,931	2,771	2,760	2,919	2,597	2,120	1,849	△ 1,082	△ 36.9
55～59歳	3,298	2,868	2,716	2,709	2,865	2,550	2,083	△ 1,215	△ 36.8
60～64歳	3,667	3,219	2,799	2,657	2,653	2,809	2,500	△ 1,167	△ 31.8
65～69歳	2,812	3,550	3,115	2,714	2,578	2,579	2,731	△ 81	△ 2.9
70～74歳	2,557	2,651	3,364	2,953	2,579	2,453	2,457	△ 100	△ 3.9
75～79歳	2,468	2,290	2,395	3,054	2,684	2,353	2,244	△ 224	△ 9.1
80～84歳	2,000	2,024	1,906	2,009	2,584	2,273	2,008	8	0.4
85～89歳	1,235	1,459	1,509	1,440	1,536	2,002	1,766	531	43.0
90歳以上	657	910	1,178	1,354	1,415	1,519	1,867	1,210	184.2
(再掲)0～14歳	6,450	5,800	5,197	4,688	4,255	3,986	3,781	△ 2,669	△ 41.4
(再掲)15～64歳	27,458	25,436	23,817	22,469	21,155	19,667	17,933	△ 9,525	△ 34.7
(再掲)65歳以上	11,729	12,884	13,467	13,524	13,376	13,179	13,073	1,344	11.5
(再掲)75歳以上	6,360	6,683	6,988	7,857	8,219	8,147	7,885	1,525	24.0

# 児童生徒数の比較(平成27年度と32年度)

○平成27年5月1日現在

○平成27年5月1日を基準とした平成32年5月1日の推計

	○平成27年5月1日現在														○平成27年5月1日を基準とした平成32年5月1日の推計														
	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		
	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級
小学校	中野	4	135	4	132	4	135	4	134	4	148	4	130	24	814	4	135	4	140	4	134	5	147	4	138	4	135	25	829
	日野	1	10	1	18	1	11	1	16	1	15	1	17	6	87	1	10	1	17	1	10	1	9	1	12	1	10	6	68
	延徳	1	25	1	32	1	29	1	27	1	35	1	33	6	181	1	22	1	22	1	25	1	24	1	22	1	25	6	140
	平野	3	88	3	73	3	92	3	79	3	78	3	98	18	508	3	97	3	78	3	90	2	69	3	80	3	88	17	502
	高丘	1	25	1	33	1	30	1	36	1	35	1	28	6	187	1	25	1	27	1	21	1	16	1	28	1	25	6	142
	長丘	1	18	1	10	1	12	1	12	1	12	1	15	6	79	1	10	1	12	1	11	1	9	1	5	1	18	6	65
	平岡	2	46	2	44	2	46	1	33	1	30	2	43	10	242	1	30	1	35	2	43	2	42	2	41	2	46	10	237
	科野	1	7	1	7	1	13	1	12	1	14	1	19	6	72	1	7	1	8	1	9	1	4	1	12	1	7	6	47
	倭	1	3	1	12	1	8	1	8	1	9	1	7	6	47	1	4	1	5	1	6	1	9	1	7	1	3	6	34
	豊井	1	20	1	21	1	25	1	11	1	13	1	19	6	109	1	11	1	10	1	18	1	16	1	27	1	20	6	102
	永田	1	13	1	9	1	6	1	12	1	13	1	12	6	65	1	11	1	4	1	6	1	11	1	3	1	13	6	48
	計	17	390	17	391	17	407	16	380	16	402	17	421	100	2,391	16	362	16	358	17	373	17	356	17	375	17	390	100	2,214
中学校	南宮	6	194	7	220	6	212						19	626	6	182	5	175	6	177							17	534	
	中野平	4	138	4	126	4	124						12	388	4	106	4	122	4	115							12	343	
	高社	3	86	3	88	3	100						9	274	3	73	3	79	2	65							8	217	
	豊田	2	39	2	40	2	37						6	116	1	30	1	31	1	23							3	84	
	計	15	457	16	474	15	473							46	1,404	14	391	13	407	13	380							40	1,178
合計													146	3,795													140	3,392	

## 統合後の学級数

① 長野県の学級編制基準の30人規模学級(1クラス35人まで)で算出しています。

② 平成27年5月1日現在を基準とした平成32年度の推計人数で積算しています。

		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
		学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	計
														普通	
小 学 校	中野	4	135	4	140	4	134	5	147	4	138	4	135	25	829
	日野	1	10	1	17	1	10	1	9	1	12	1	10	6	68
	延徳	1	22	1	22	1	25	1	24	1	22	1	25	6	140
	統合後	1	32	2	39	1	35	1	33	1	34	1	35	7	208
	平野	3	97	3	78	3	90	2	69	3	80	3	88	17	502
	高丘	1	25	1	27	1	21	1	16	1	28	1	25	6	142
	統合後	4	122	3	105	4	111	3	85	4	108	4	113	22	644
	長丘	1	10	1	12	1	11	1	9	1	5	1	18	6	65
	平岡	1	30	1	35	2	43	2	42	2	41	2	46	10	237
	科野	1	7	1	8	1	9	1	4	1	12	1	7	6	47
	倭	1	4	1	5	1	6	1	9	1	7	1	3	6	34
	統合後	2	51	2	60	2	69	2	64	2	65	3	74	13	383
	豊井	1	11	1	10	1	18	1	16	1	27	1	20	6	102
	永田	1	11	1	4	1	6	1	11	1	3	1	13	6	48
	統合後	1	22	1	14	1	24	1	27	1	30	1	33	6	150
	統合前計	16	362	16	358	17	373	17	356	17	375	17	390	100	2,214
	統合後計	12		12		12		12		12		13		73	
	中 学 校	南宮	6	182	5	175	6	177							17
中野平		4	106	4	122	4	115							12	343
高社		3	73	3	79	2	65							8	217
豊田		1	30	1	31	1	23							3	84
計		14	391	13	407	13	380							40	1,178

○ 学校施設の概要

資料 6

学校名	校地 総面積 (㎡)	校舎 敷地 (㎡)	屋外 運動場 (㎡)	屋内 運動場 (㎡)	校舎 建設 年度	構造 及び 階 数	法定 耐用年数 の年度
中野小学校	33,714 <del>34,635</del>	18,419	13,662 <del>13,622</del>	1,524	S55～60	RC造 (3階)	H40
日野小学校	17,135 <del>17,830</del>	7,923	8,445	838	S56～62	RC造 (3階)	H41
延徳小学校	14,864 <del>17,618</del>	7,071	7,793 <del>10,381</del>	929	S61～62	RC造 (3階)	H46
平野小学校	14,192 <del>14,839</del>	9,387	4,805 <del>5,353</del>	1,003	S57～58	RC造 (3階)	H42
高丘小学校	16,721 <del>17,496</del>	11,157	5,425 <del>6,200</del>	808	S55～57	RC造 (3階)	H40
長丘小学校	18,339 <del>17,456</del>	9,178	7,948	921	H13	RC造 (2階)	H61
平岡小学校	18,679 <del>17,328</del>	9,988	6,288	1,303	S59～60	RC造 (3階)	H44
科野小学校	29,210 <del>21,030</del>	7,189	12,462	680	S55～56	RC造 (3階)	H40
倭小学校	12,195 <del>15,001</del>	7,717 <del>9,120</del>	4,478 <del>5,681</del>	890	S57	RC造 (3階)	H42
豊井小学校	14,697 <del>17,295</del>	7,814 <del>8,750</del>	6,642 <del>7,941</del>	933	S51～54 S52～54	RC造 (2階)	H36 H37
永田小学校	22,648 <del>24,542</del>	7,331	13,486 <del>15,116</del>	838	S55	RC造 (3階)	H40
南宮中学校	32,198 <del>35,022</del>	19,202	12,996 <del>13,130</del>	1,382	H7～10	RC造 (3階)	H55
中野平中学校	34,130	16,404	14,384	1,492	H12	RC造 (3階)	H60
高社中学校	28,609 <del>30,761</del>	15,428	13,052 <del>15,204</del>	1,328	H14～16	RC造 (3階)	H62
豊田中学校	24,755 <del>18,450</del>	6,537	11,551	1,080	S46～47	RC造 (2階)	H31

※ 法定耐用年数 鉄筋コンクリート 47年 (文科省が定めている法定耐用年数)  
(但し、実際の耐用年数はコンクリートの強度、参考文献等から60～65年を想定している。)

※ RC造：鉄筋コンクリート造



斑尾高原  
体験交流施設  
まだらおの湯  
斑尾大池  
**中野市**

飯山市

# 小・中学校マップ

